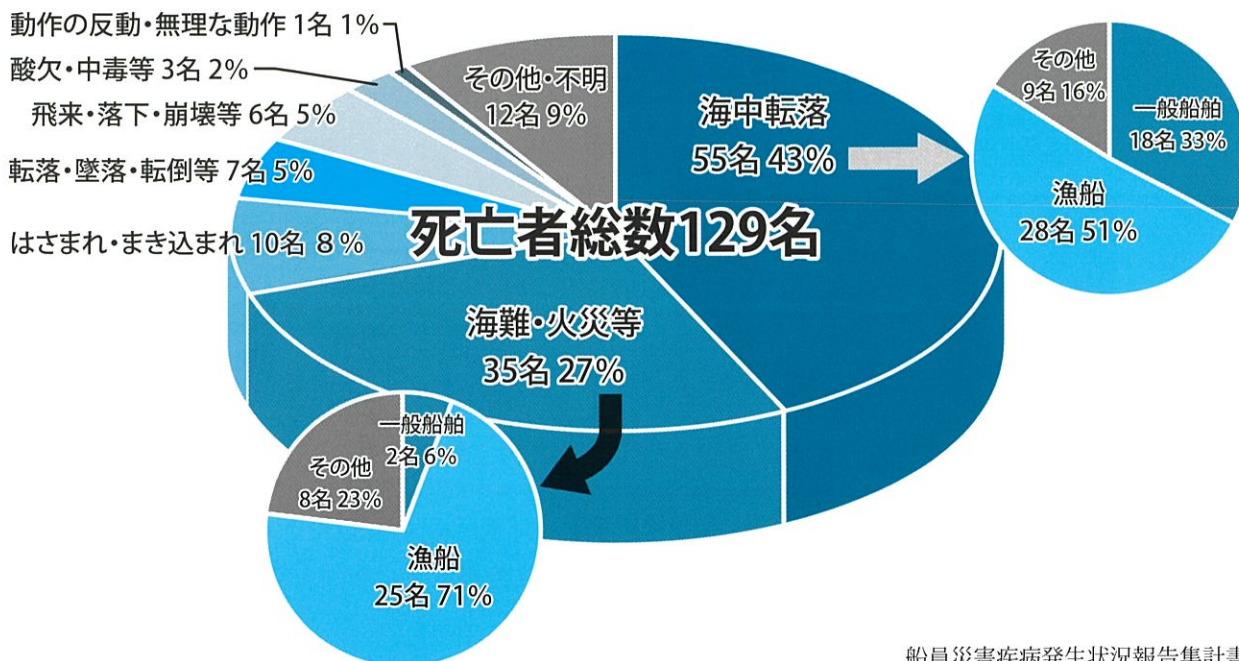


船員の死亡・行方不明災害防止は海中転落予防から

死亡・行方不明災害発生状況 5年累計(平成28年度-令和2年度)



船員災害疾病発生状況報告集計書より

5年間の死亡・行方不明災害を円グラフで示したものです。なかでも、海中転落による死亡者数は55名で全体の43%にもおよびます。

「救命衣の着用」、「荒天時の操業は控える」、「暴露甲板上での単独作業を行わない」などの安全対策を講じましょう。

海中転落による死亡・行方不明者数 (年度・船種別)

合計：141名

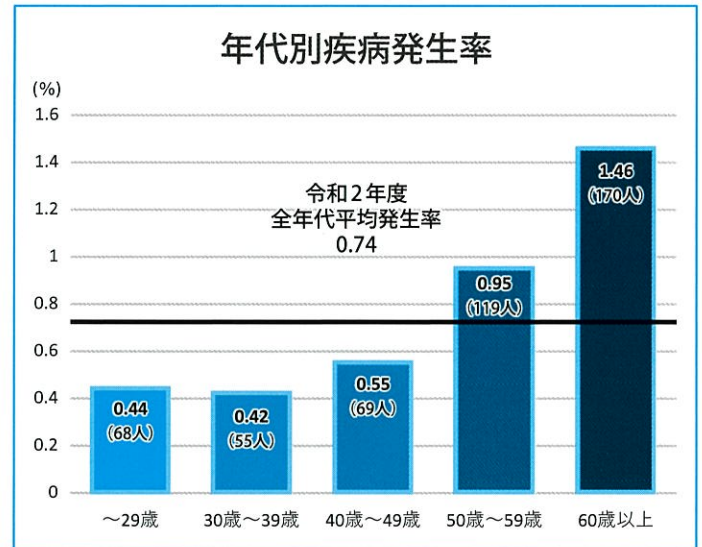
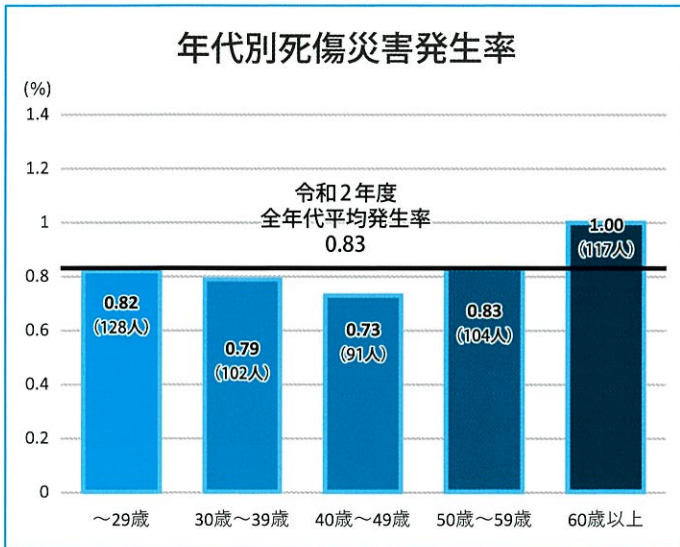


上のグラフは平成21年度～令和2年度までの、海中転落による死亡者数を年度・船種別に示しています。

海中転落の可能性のある業務では、作業者に遭難信号発信器等を携帯させることも検討しましょう。

死傷災害と疾病の発生は高齢者に多い

令和4年度船員災害防止実施計画より



年代別死傷災害発生率は60歳以上で非常に高くなっています。加齢による身体機能の低下や慣れによる油断等に注意しましょう。年代別疾病発生率は50歳から高くなり、60歳以上で急騰しています。健康状態を日常的に把握する必要があります。

船員の疾病予防は生活習慣の改善から

全船員の疾病の種類別発生状況では、循環器系疾患、消化器系疾患、筋骨格系疾患、感染症、及び新生物（ガン）が高い割合を示しています。

中高年齢船員では、高血圧などの循環器系疾患、新生物、筋骨格系疾患、新生物（ガン）、消化器系疾患などが多く発生しています。

全船員と中高年齢船員が共に、循環器系疾患、消化器系疾患、新生物の割合が高いことを示しています（下図の青色部分）。これらの疾患は、生活習慣病が大いに関わっています。生活習慣を変えることで健康維持に努めるよう心掛けましょう。

疾病の種類別発生状況

